

2021年4月14日 (水)



日立ソリューションズ・クリエイト

仮想オフィスを開発

「チームズ」そのまま活用

日立ソリューションズ・クリエイト（東京都品川区）は、マイクロソフトのコミュニケーションツール「マイクロソフト・チームズ」をそのまま活用できる仮想オフィスを開発した。仮想オフィス内は360度視点で移動しチームズで簡単に在席者とコミュニケーションできるほか、その日の業務やスケジュールなどを一括するワークボードも用意した。5月10日から全従業員の1割に当たる約400人で社内実証実験を始め、今年度中に全社導入できるような有効性を検証していく。

5月10日から社内実証実験



開発した仮想オフィスは実際のオフィスに従業員が在席している様子が一目で分かるようになっている

ワークボードにより一日の業務内容やチームメンバーのステータスが一目で分かる

新たに開発したのは、360度パノラマビューを採用した仮想オフィスで、多くの企業が導入している「チームズ」をそのまま活用してコミュニケーションができる特徴がある。チームズと完全に連携しており、360度写真を使い屋外を自由に移動できる地図サービスのような使い勝手を実現している。

オフィスの360度写真に写るデスク上には、従業員の写真アイコンが表示され、「退席中」や「連絡可能」といったチームズのステータス情報や、新たに加えた「感情（気持ち）マーク」なども併せて表示する。パソコン（PC）上でオフィスを歩き回り顔写真のアイコンをクリックすれば即座にチームズが立ち上がり、チャットやビデオ通話などができる仕組みだ。

開発を手掛けた経営戦略統括本部の左近允

晃主任技師は「既に活用が進むチームズをそのまま活用して仮想オフィスを利用できるようにした」という。在宅勤務をしてもロケインしているほかの従業員にすぐに仮想オフィス上で会えるほか、独自開発したフロアマップを見れば、どこに誰がいて連絡可能かどうかともすぐに確認できる。

5月から始める社内実証では本社、横浜、北陸の3拠点に仮想オフィスを導入し見えないう相手への話し掛けやすさや応答しやすさなどを検証することも、オンラインでも一体感が得られるかを確認する。検証期間は7月2日までになる。

同社は2016年10月から働き方改革に本格的に取り組み、テレワークの推進や勤怠管理システムの強化、社内啓蒙（けいもう）などに取り組んできた。15年度比で9割以上削減しながら19年度は営業利益の過去最高を達成するなど成果を上げてきた。

一方、昨年の新型コロナウイルス感染拡大に伴う在宅勤務の拡大によりコミュニケーションや業務効率の低下なども課題に挙がっており、「特に同じオフィス内の従業員との距離を縮めたいという思いもある」（人事創夢本部・田中亜友子担当部長）という。

今回のシステム化はこれまで培ってきた技術などを生かしたことで、短期間低コストで実現できた。中村勝彦

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。

人事創夢本部副本部長兼総務部部長は「顧客先に駐在している従業員も多いため、ツールの活用でより一体感を持たせていきたい」と話している。